

別府溝部学園短期大学自己点検・評価について ー平成 24 年度ー  
～学生による授業評価～

牧 昌生

The Report of the 2012 Self-Study and Evaluation at  
Beppu Mizobe Gakuen College

Masao Maki

はじめに

中央教育審議会は「教育の質」の確保・向上を高等教育機関に求めている。教員が授業を行うにあたり、多様な学生のニーズに応える教育を創造し提供し続けなければならない。

現実に、大学・短期大学は既に全入時代を迎え、幅の広い学生を受け入れてきている。向学心・向上心が旺盛な学生ばかりではない。目的意識が希薄な学生も入学してきている。

このような中、教員は学生の学力や意識、受講態度、理解力等を的確に把握し、その状況に応じて授業内容・方法を改善して行かなければならない。しかし、教員の一方的授業分析では、誤った判断をしている可能性は否定できない。そのため、各教員の授業について、受講している学生からの情報が必要になってくる。

学生による授業の評価は、別府溝部学園短期大学では、平成 5 年度から自己点検評価委員会を発足させて、検討を行ってきた。平成 1 2 年度からは全教科（専任・非常勤講師を問わない）を対象として、マークシート方式で調査を行ってきた。また、平成 1 7 年度からは学内 LAN を利用した Web により、全学生による授業評価を行ってきた。

それらの結果を各教科毎に各教員に、その評価情報・結果が提供され、その分析を個々に行い授業の改善・工夫の努力が行われ、学生の受講意識、理解度等の向上がなされてきている。本学の建学の精神である「自立・自活できる人材の育成」をめざし、各授業担当者が学生の琴線にふれるべく常に創意工夫を凝らした授業を創造している。

そこで、平成 2 4 年度の全学科、全開講科目に対する学生による授業評価の結果について検討した。

### 1. 調査内容および方法

平成 24 年度の「学生による授業評価」は、本学の学内 LAN を利用した Web での「デジタルキャンパス」を利用したシステムでの評価法により、下記の 10 項目の評価項目について実施した（表 1）。「教員による自己評価」も上記と同様に行った。

表 1 学生による点検項目

Q 1	この授業はわかりやすかった
Q 2	学習内容に興味や関心が持てた
Q 3	学習内容の分量は適切だった

- Q 4 教員の教え方に工夫が感じられた
- Q 5 教員は熱心に教えていた
- Q 6 授業中どの学生にも公平に接していた
- Q 7 いつも集中して聴けた
- Q 8 私語をつつしんだ
- Q 9 遅刻、欠席がないよう心がけた
- Q10 意欲的に取り組んだ

教員による自己評価も従来通り下記の 10 項目で行った (表 2)。

表 2 教員による自己評価

- Q 1 学生は授業を理解した
- Q 2 授業の事前準備は、十分おこなった
- Q 3 学生の興味・関心を喚起するように心がけた
- Q 4 各種教材 (視聴覚機器・教科書等) を有効に活用した
- Q 5 授業の開始・終了時刻を守った
- Q 6 授業中どの学生にも公平に接した
- Q 7 出欠確認を適切におこなった
- Q 8 授業目的を達成した
- Q 9 授業要項 (シラバス) の記載内容は現状のままでよい
- Q10 学生のことが理解できた

平成 24 年度授業評価として、表 1 の Q1 から Q10 の質問に対し、下表のとおり 5 段階で評価させた。また、全学科の集計値 (表 3 及び表 4) を各評価項目について、肯定的評価及び否定的評価に分類し、図 1 及び図 2 のグラフで示した。

1 とてもそう思う	肯定的評価
2 だいたいそう思う	
3 どちらとも言えない	
4 あまりそう思わない	否定的評価
5 まったくそう思わない	

#### 結果及び考察

##### ○全体評価

##### ・前期

表 3 から、学生の授業評価は、すべての質問項目で「とてもそう思う」が昨年度同様に 50 %を超え、特に、Q 9 (遅刻、欠席がないよう心がけた) は 73 %で積極的に授業に参加しようとする姿勢が伺える。Q 7 (いつも集中して聴けた) 54 %は多少注視しなければならないが、総じて、学生側の項目は高率であり、真面目に授業に取り組んでいる姿が伺

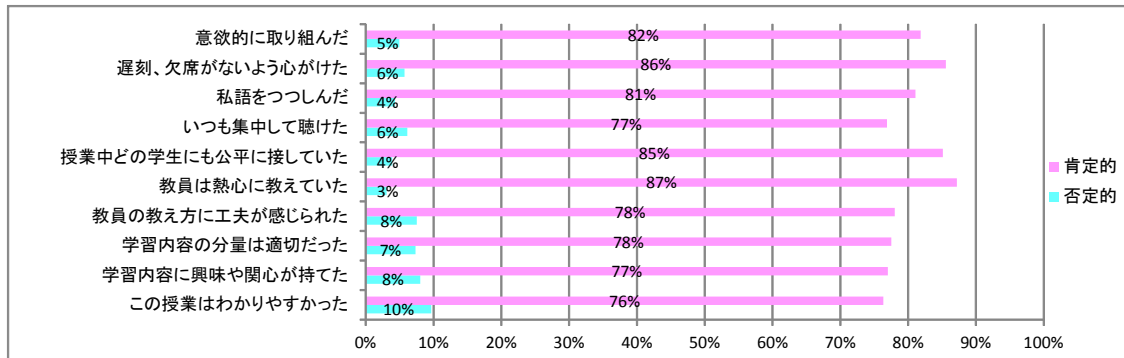
える。

図1の学生による授業満足度を集計したグラフより「だいたいそう思う」を含めた肯定的評価レベルでは、学生の受講意識を問う項目はいずれも80%以上を示している。このことは本学の就業に向けた学習の意識付けがしっかりできていることに他ならない。教員の授業方法や内容を問う項目においては、全項目80%程度の肯定的評価となっていることは、教員の本学学生の目指している方向性に合致した教育内容を行い、学生の理解度を考慮した授業方法を行っていることと言える。しかし、この授業はわかりやすかったの項目で10%の学生が否定的評価をしていることは、理解度が不足している学生がいることを教員は自覚しなければならない。これらのことから、教員の授業運営及び学生に対する姿勢と学生の心構えが相互に触れあい、自己実現に向けた教育活動が適切に推進されていると考えられる。

表3 全体評価（前期）

全体評価		（前期）					
		とても そう 思う	だ い た い そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	55%	23%	13%	5%	4%	1%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	56%	23%	13%	4%	3%	1%
Q3	学習内容の分量は適切だった	55%	24%	14%	4%	2%	1%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	58%	22%	12%	4%	2%	1%
Q5	教員は熱心に教えていた	68%	21%	7%	2%	1%	2%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	67%	19%	9%	2%	2%	2%
Q7	いつも集中して聴けた	54%	24%	14%	4%	2%	2%
Q8	私語をつつしんだ	62%	20%	11%	3%	2%	2%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	73%	14%	7%	3%	2%	1%
Q10	意欲的に取り組んだ	63%	20%	12%	3%	2%	0%

図1 学生による授業満足度（前期）



## 後期

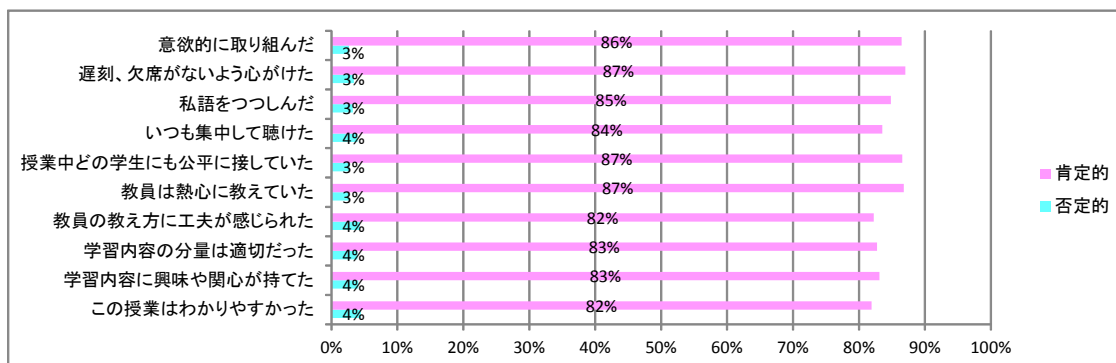
表4から、「とてもそう思う」評価では、Q9（遅刻、欠席がないよう心がけた）が前期73%から後期77%、Q10（意欲的に取り組んだ）が前期63%から70%と学生の受講意識が積極的に変化が認められた。教員への評価においても、Q1（この授業はわかりやすかった）が55%から68%へ、Q2（学習内容に興味や関心がもてた）は56%から68%、Q4（教員の教え方に工夫が感じられた）が58%から69%、Q5（教員は熱心に教えていた）が68%から73%といずれも増加している。これらのことから教員の在学生の学力を把握し、能力に応じた授業を展開していることを裏付けている。あわせて、学生も自らの進路を明確に意識し、授業の位置づけが理解できてきていることである。

図2の学生による授業満足度を集計したグラフより「だいたいそう思う」を含めた肯定的評価レベルでは、学生の受講意識を問う項目はいずれも80%以上を示しており、前期よりもいずれも数%増加している。特に前期において否定的評価が10%であったQ10（この授業はわかりやすかった）が後期では4%と激減している。これは前期において学生の自らの評価を教員が自覚し、理解度の低い学生への丁寧な講義に修正したことがこの結果として表れている。この結果から学生による教員の授業評価が、教員の授業の質の向上に結びついていることとして、今後も続ける必要を感じる。

表4 全体評価（後期）

全体評価		(後期)					
		とても そう思う	だいたい そう思う	どちらとも 言えない	あまり そう 思わない	まったく そう 思わない	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	68%	15%	13%	2%	2%	1%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	68%	16%	12%	2%	2%	1%
Q3	学習内容の分量は適切だった	67%	16%	12%	2%	2%	1%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	69%	14%	12%	2%	2%	1%
Q5	教員は熱心に教えていた	73%	14%	10%	1%	1%	1%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	71%	15%	10%	1%	1%	1%
Q7	いつも集中して聴けた	67%	17%	12%	2%	1%	1%
Q8	私語をつつしんだ	70%	15%	11%	2%	3%	1%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	77%	10%	9%	1%	1%	1%
Q10	意欲的に取り組んだ	70%	17%	11%	1%	1%	1%

図2 学生による授業満足度（後期）



○学科間の比較

・前期

表5から学科間の特徴を見てみると、学生の理解度を示すQ1、Q2で比較すると、演習や実習等の体験的授業が多い、幼児教育学科や介護福祉学科の肯定的評価が80%以上を示し、講義科目が比較的多い食物栄養学科の肯定的評価が60%台と低くなっている。教員の教育態度を示すQ5、Q6は、肯定的評価として全学科80%を超えている。このことから、食物栄養学科の講義科目（内容）が化学や生物の基礎的知識があることを前提としての授業展開を行っており、高等学校でこれらの科目の受講が不十分な学生が入学してきていることもこの結果となっていると考えられる。そのため、今後は入学前教育や入学後の早期の基礎的学習を必要としている。ライフデザイン総合学科の学生の受講に向かう意

識が他の学科に比べやや低い傾向にある。将来の就業意識や進路に対して、この学科の教育課程に国家資格を取得するという、明確な目標が位置づけられていないことも理由として考えられる。

表5 全体評価（前期・学科間比較）

	全体評価 (前期・学科間比較)														
	4+5 [肯定的評価]					3					1+2 [否定的評価]				
	ライフ	食物	幼教	介護	平均	ライフ	食物	幼教	介護	平均	ライフ	食物	幼教	介護	平均
Q1 この授業はわかりやすかった	74%	64%	80%	88%	76%	14%	22%	12%	7%	13%	13%	13%	8%	5%	10%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	71%	66%	81%	90%	77%	17%	22%	13%	6%	14%	12%	11%	5%	4%	8%
Q3 学習内容の分量は適切だった	75%	67%	80%	88%	78%	14%	21%	14%	8%	14%	10%	11%	5%	4%	7%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	74%	69%	82%	87%	78%	13%	20%	11%	8%	13%	11%	11%	5%	4%	8%
Q5 教員は熱心に教えていた	85%	81%	90%	93%	87%	10%	13%	6%	3%	8%	5%	4%	2%	1%	3%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	84%	81%	85%	90%	85%	10%	13%	9%	5%	9%	4%	4%	4%	3%	4%
Q7 いつも集中して聴けた	76%	66%	80%	86%	77%	17%	23%	13%	8%	15%	6%	9%	5%	4%	6%
Q8 私語をつつしんだ	75%	79%	80%	90%	81%	19%	14%	13%	4%	12%	5%	5%	5%	2%	4%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	78%	81%	89%	94%	86%	9%	12%	5%	3%	7%	11%	7%	4%	0%	6%
Q10 意欲的に取り組んだ	80%	70%	85%	92%	82%	13%	22%	11%	5%	13%	6%	8%	4%	3%	5%

・後期

表6から、肯定的評価に関して学科別に見ると、他学科に比して若干厳しい評価が出ていた食物栄養学科では、学生の授業に取り組む意欲を示す割合が、肯定的評価として70%台に大幅な改善している。後期では、すべての項目が70%以上に改善されている。他の3学科（ライフデザイン総合学科、幼児教育学科、介護福祉学科）はいずれも肯定的評価は80%を超え、特に介護福祉学科は多くの項目で90%を超えていることから、学生、教員とも、各授業の位置づけが明確に捉えられ、教員の努力が形になっていると言える。

表6 全体評価（後期・学科間比較）

	全体評価 (後期・学科間比較)														
	4+5 [肯定的評価]					3					1+2 [否定的評価]				
	ライフ	食物	幼教	介護	平均	ライフ	食物	幼教	介護	平均	ライフ	食物	幼教	介護	平均
Q1 この授業はわかりやすかった	84%	70%	82%	92%	82%	12%	20%	14%	6%	13%	4%	9%	3%	2%	4%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	85%	70%	85%	93%	83%	10%	21%	12%	5%	12%	5%	8%	3%	1%	4%
Q3 学習内容の分量は適切だった	85%	73%	82%	91%	83%	10%	19%	15%	6%	12%	4%	7%	3%	2%	4%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	84%	69%	84%	92%	82%	11%	21%	12%	6%	13%	4%	9%	2%	2%	4%
Q5 教員は熱心に教えていた	88%	77%	87%	95%	87%	8%	17%	10%	4%	10%	4%	5%	1%	1%	3%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	91%	76%	85%	94%	87%	6%	18%	12%	4%	10%	2%	5%	2%	2%	3%
Q7 いつも集中して聴けた	87%	72%	84%	91%	84%	8%	20%	12%	7%	12%	4%	8%	3%	2%	4%
Q8 私語をつつしんだ	83%	77%	85%	95%	85%	13%	16%	11%	4%	11%	4%	6%	2%	1%	3%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	87%	79%	87%	96%	87%	7%	16%	10%	3%	9%	6%	4%	3%	1%	3%
Q10 意欲的に取り組んだ	89%	76%	86%	95%	86%	7%	18%	12%	4%	10%	4%	5%	2%	1%	3%

以上のことから、全体的には、今年度も学生の授業に対する満足度はかなり高いレベルで推移してきたものと思われる。幅の広い学生層に誠実に対面し、適切な授業の提供に意を用いた教員の努力の賜であろう。この結果に満足することなく、教える立場の教員は、常に、自らの授業を冷静に見つめ、学生の実態に即したものになっているか、学習者を中心に据えた授業になっているか等、シビアな自己評価・授業評価を行い、真摯な態度で授業改善に取り組むことが必要であろう。その際、個人として授業研究を行うことはもちろん重要であるが、学科やグループ等で組織的に研究活動を行い、PDCAの継続的取り組みが大切であると考えられる。

○学科別授業評価

以下、学科・学年ごとに考察を加える。ただし、留学生については、学科の枠を取り払って学年単位でまとめて集計している。

1. ライフデザイン総合学科 1年

前期（表7、図3）、後期（表8、図4）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）は概ね80%である。後期は85%を超えている。特に教員の授業状況については、93%と学生は教員に良い評価を与えている。しかし、学生の受講意欲は、前期に比べ後期は10%の減少が認められる。ただし、学習内容は、興味関心が持てたが15%増加していることから、教員の熱心さは感じるが、自分自身の目標が薄らいできているために、意欲が湧かないことと推察される。

入学して自分の夢の達成に向け、意欲を持って受講してきたが、時間が経つにつれ、目標が不明確になってきている。このため、機会ある毎に、学生の学ぶことの位置づけを確認し、意欲を持続させる必要がある。

表7 ライフデザイン総合学科 1年 前期

ライフデザイン総合学科1年 (前期)

	とても 思う	だ いたい そう 思う	ど ちら とも 言 え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	55%	23%	11%	5%	7%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	49%	21%	20%	5%	7%	0%
Q3 学習内容の分量は適切だった	47%	32%	13%	5%	4%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	52%	26%	12%	6%	4%	2%
Q5 教員は熱心に教えていた	61%	27%	7%	5%	1%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	62%	25%	10%	3%	2%	0%
Q7 いつも集中して聴けた	48%	31%	14%	3%	4%	2%
Q8 私語をつつしんだ	46%	27%	20%	3%	3%	2%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	63%	18%	9%	3%	6%	2%
Q10 意欲的に取り組んだ	60%	21%	12%	4%	3%	1%

表8 ライフデザイン総合学科 1年 後期

ライフデザイン総合学科1年 (後期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	67%	18%	9%	4%	1%	2%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	64%	21%	9%	5%	1%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	70%	17%	8%	3%	1%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	66%	21%	6%	4%	1%	2%
Q5 教員は熱心に教えていた	78%	15%	3%	4%	0%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	78%	17%	4%	0%	1%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	62%	25%	10%	3%	0%	0%
Q8 私語をつつしんだ	61%	22%	15%	2%	0%	0%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	75%	15%	5%	3%	3%	0%
Q10 意欲的に取り組んだ	71%	17%	9%	3%	1%	0%

図3 ライフデザイン総合学科1年 (前期満足度)

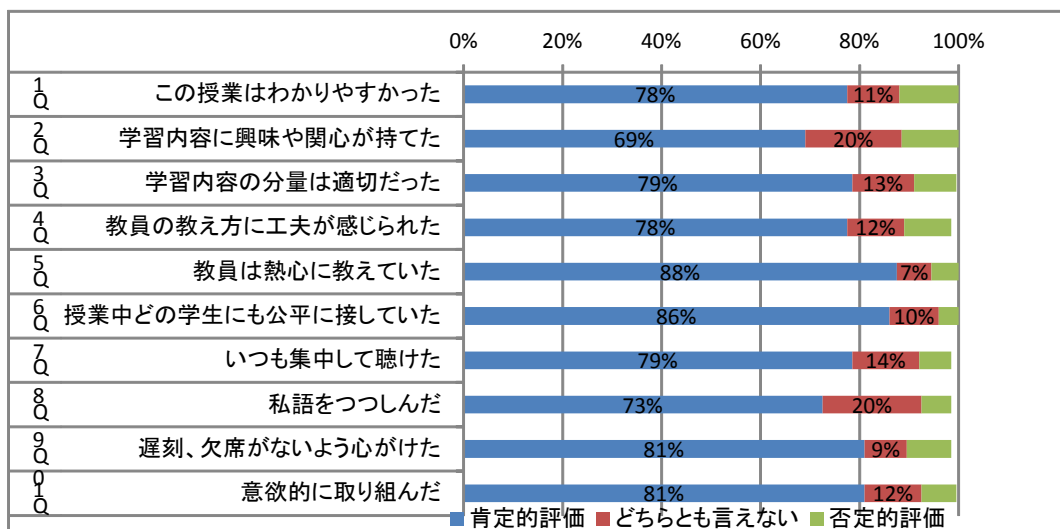
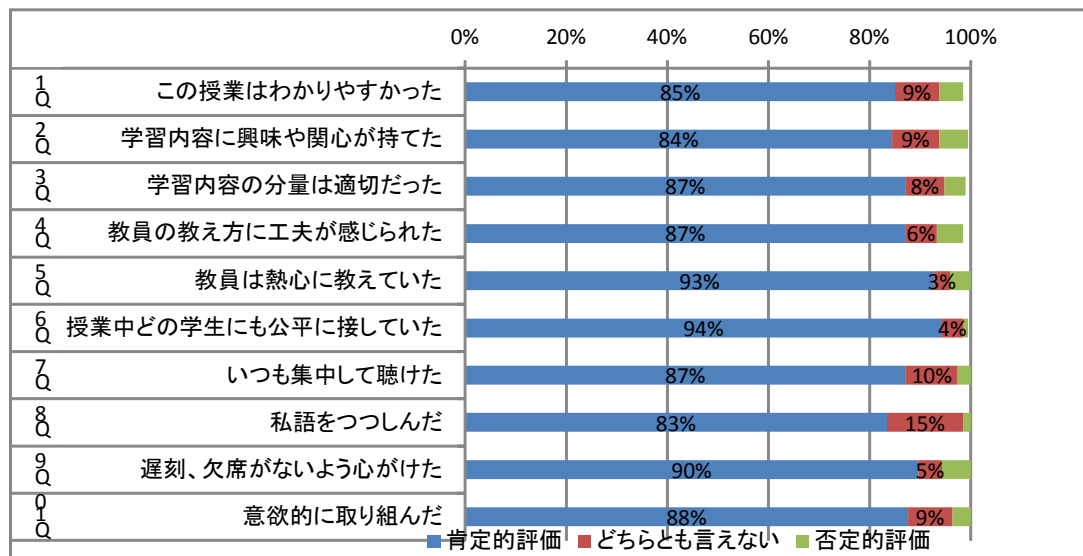


図4 ライフデザイン総合学科1年 (後期満足度)





## 2. ライフデザイン総合学科 2年

前期（表 9、図 5）、後期（表 10、図 6）に示しているとおりに、前期の満足度（肯定的評価）の傾向は 1 年次生の傾向と同様、学生の学力、能力に合っていない高度な授業を行っている結果となっている。新年度を迎え教員の意欲は旺盛で、学生に求める内容が、受け手の学生に伝わっていない。教員の熱心さは伝わっているが、理解は進んでいない。後期は、前期の反省ができていると思われる。学生の集中力、理解度は高くなっている。特に 2 年次生はファッションショー、卒業制作展へ向けて、個々の作品の制作物の完成を目指していることもあり、遅刻、欠席がないように学生自身の受講態度も向上している。しかし、意欲的に取り組んだ学生は 70 % と極端に減少している。学生の就職先との関係で授業との関連が薄れている場合の意識付けに工夫が必要となる。

表 9 ライフデザイン総合学科 2年 前期

ライフデザイン総合学科2年 (前期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	44%	27%	16%	7%	6%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	46%	27%	14%	7%	6%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	49%	24%	16%	8%	3%	0%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	47%	25%	14%	7%	5%	2%
Q5 教員は熱心に教えていた	59%	24%	13%	2%	2%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	63%	21%	11%	3%	1%	2%
Q7 いつも集中して聴けた	47%	27%	19%	3%	3%	1%
Q8 私語をつつしんだ	52%	24%	17%	4%	1%	2%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	54%	22%	10%	8%	5%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	53%	27%	14%	3%	3%	1%

表 10 ライフデザイン総合学科 2年 後期

ライフデザイン総合学科2年 (後期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	56%	27%	14%	1%	2%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	57%	28%	10%	1%	3%	0%
Q3 学習内容の分量は適切だった	57%	27%	11%	2%	2%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	54%	27%	14%	2%	2%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	61%	24%	12%	2%	2%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	64%	25%	7%	2%	1%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	62%	25%	7%	2%	3%	2%
Q8 私語をつつしんだ	57%	25%	12%	4%	2%	0%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	62%	22%	9%	4%	3%	0%
Q10 意欲的に取り組んだ	62%	28%	6%	1%	3%	0%

図 5 ライフデザイン総合学科 2年 (前期満足度)

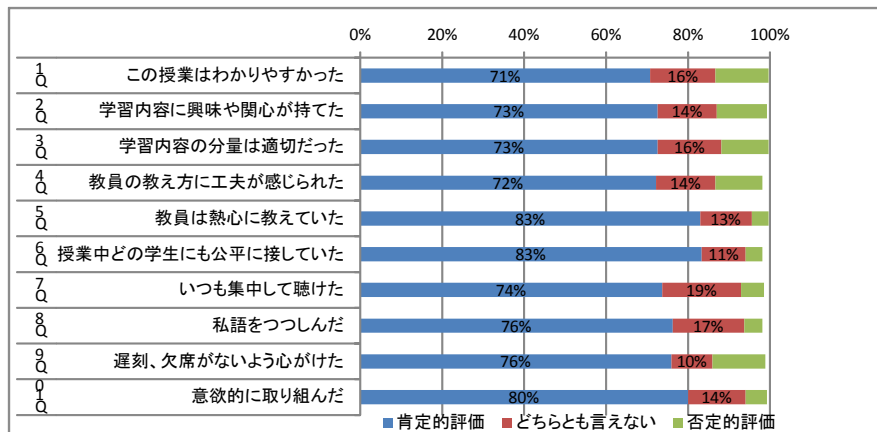
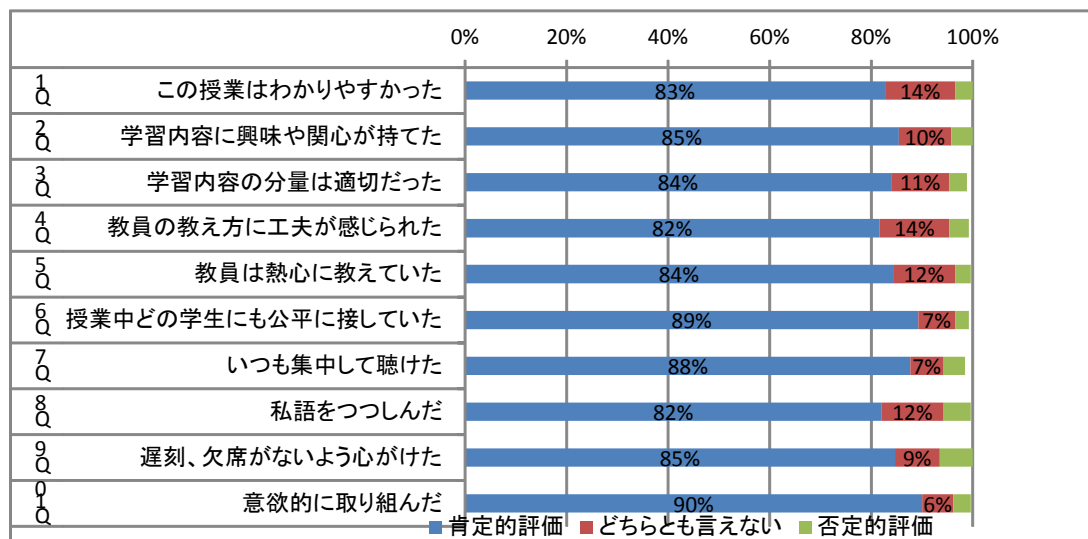


図6 ライフデザイン総合学科2年（後期満足度）



### 3. 食物栄養学科1年

前期（表11、図7）、後期（表12、図8）に示しているとおりに、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業への向かい方は学生に好評である。学生の受講姿勢も良好である。しかし、学習内容が在学生のレベルに合っていない、理解度が低い傾向を示している。高校時代に化学や生物を履修できていない学生が比較的多いこともこの結果と比例している。教員は教科書に準拠した授業ではなく、学生の理解度を常に確認しながらの教授方法の工夫が必要である。後期に入ると、前期に学んだ内容の延長線上の科目が多くなることもあり、学生の興味関心は高まり、理解度も向上している。あわせて、意欲を示すがくせいも87%に増加していることも、教員の努力が認められる。

表 11 食物栄養学科 1年 前期

食物栄養学科1年 (前期)

	とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそ う思 わな い	ま た た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	37%	32%	18%	8%	5%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	41%	32%	18%	6%	2%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	38%	35%	16%	7%	3%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	45%	31%	15%	7%	2%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	60%	31%	7%	1%	0%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	65%	28%	6%	0%	0%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	40%	30%	20%	6%	2%	2%
Q8 私語をつつしんだ	64%	26%	7%	1%	1%	2%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	74%	13%	6%	2%	4%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	48%	29%	16%	6%	1%	0%

表 12 食物栄養学科 1年 後期

食物栄養学科1年 (後期)

	とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそ う思 わな い	ま た た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	60%	23%	9%	7%	0%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	58%	26%	11%	3%	1%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	59%	29%	8%	3%	0%	2%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	59%	22%	11%	7%	1%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	70%	21%	7%	2%	0%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	66%	22%	8%	2%	1%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	58%	27%	10%	5%	1%	0%
Q8 私語をつつしんだ	70%	19%	8%	2%	0%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	79%	9%	8%	1%	1%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	64%	23%	10%	1%	1%	1%

図 7 食物栄養学科 1年 (前期満足度)

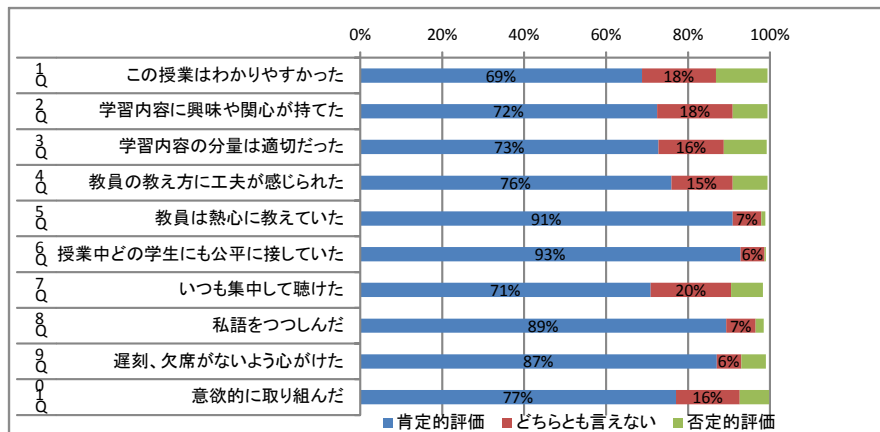
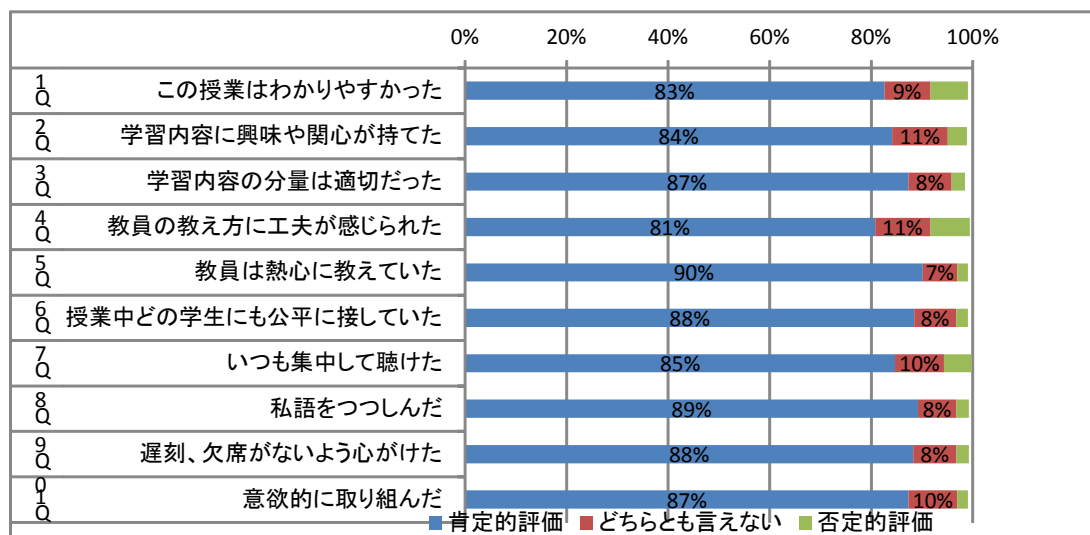


図 8 食物栄養学科 1 年（後期満足度）



#### 4. 食物栄養学科 2 年

前期（表 13、図 9）、後期（表 14、図 10）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、4 学科全てにおいて最も低い傾向を示している。この年度の学生は 1 年次の時から満足度が低く、その傾向を 2 年次に引きずっている。前年度から教員の変更もあり、新たな教員との距離感を持つことが困難なためとも考えられるが、新年度の教員も授業の工夫が足りないと言わざるを得ない。1 年次生の教員への評価が高いだけに、この 2 年次生からの評価の低さは、教員は同じ対応をしても伝わらない学生がいるということを感じなければならぬ。

後期になっても教員に対する評価は変わらない。学生自身も受講の姿勢は前期同様低調である。この調査で最も気にかかることは、「どちらともいえない」という、肯定的、否

定的評価でもない学生がいずれの項目も 25 %程度いることである。このことはアンケート調査に積極的でないための回答とも考えられる。もしそうであれば、この学生による授業評価の意義をしっかりと伝えられていないことになり、調査結果の信用に関わる大きな問題である。しかし、本当にどちらでもないということであれば、教員はもう一工夫の努力で肯定的評価をもつ学生が増加することとなる。今後の正確な評価をしていただくために、学生へのこの調査の意義をしっかりと伝える努力が要求される。

表 13 食物栄養学科 2 年（前期）

食物栄養学科2年 (前期)		とても そう思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	35%	26%	25%	7%	7%	0%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	34%	26%	26%	6%	7%	1%
Q3	学習内容の分量は適切だった	35%	27%	26%	6%	5%	1%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	37%	24%	25%	6%	6%	2%
Q5	教員は熱心に教えていた	47%	25%	19%	2%	5%	2%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	49%	20%	21%	3%	5%	2%
Q7	いつも集中して聴けた	35%	27%	26%	5%	6%	1%
Q8	私語をつつしんだ	45%	24%	20%	3%	5%	2%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	55%	19%	17%	4%	4%	0%
Q10	意欲的に取り組んだ	40%	23%	28%	4%	5%	1%

表 14 食物栄養学科 2 年（後期）

食物栄養学科2年 (後期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	45%	15%	28%	4%	6%	2%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	42%	18%	28%	4%	6%	2%
Q3 学習内容の分量は適切だった	46%	17%	26%	5%	5%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	44%	16%	29%	4%	5%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	49%	18%	25%	3%	4%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	50%	17%	25%	3%	4%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	45%	19%	27%	5%	4%	1%
Q8 私語をつつしんだ	51%	16%	23%	4%	5%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	57%	16%	20%	4%	2%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	46%	23%	24%	4%	2%	0%

図9 食物栄養学科2年 (前期満足度)

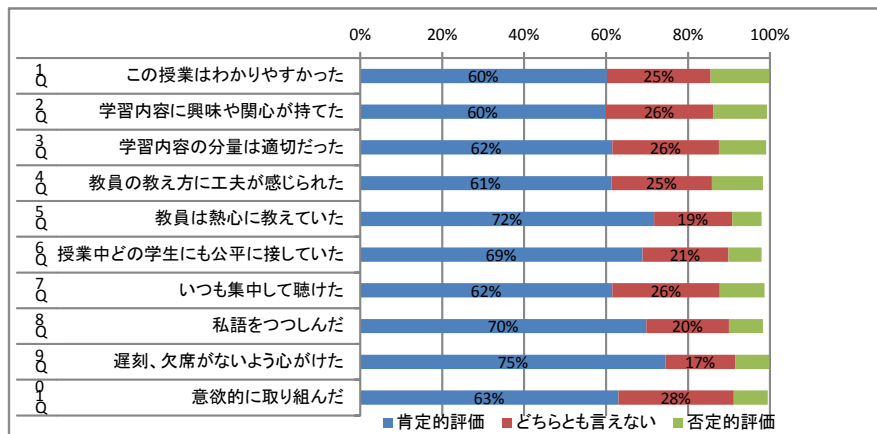
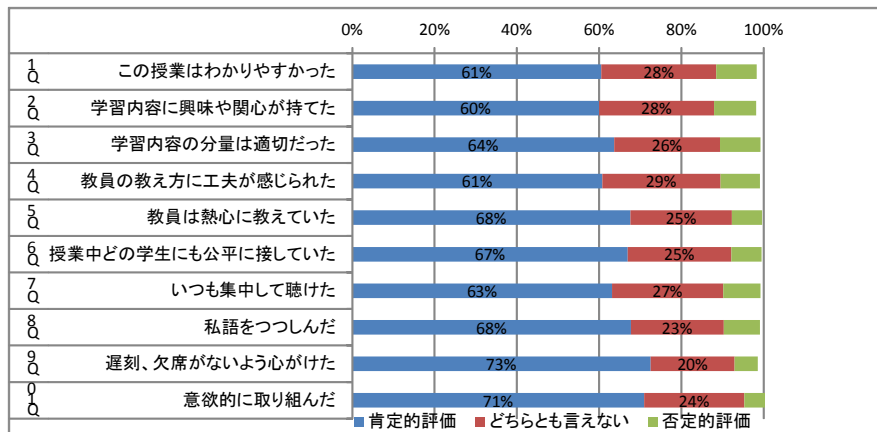


図10 食物栄養学科2年 (後期満足度)



## 5. 幼児教育学科 1 年

前期（表 15、図 11）、後期（表 16、図 12）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、学生の受講意欲は旺盛である。しかし、集中力、私語の多さは幼児教育学科の学生の特徴とも言えるが、教員の授業運営にも問題がある。教員の教え方の工夫についても評価は高くない。授業がわかりにくいという学生が 10 %いることにも教員は注意を払うべきである。

後期については、満足度はいずれの項目も 5%程度低下している。学生の意欲的に取り組んだという項目では、4 学科中最も低い傾向を示している。前期は 85 %であったが、後期は 78 %に減少している。幼稚園教諭、保育士を目指す意欲が低下してきたとしたら、幼児教育学科全体の指導方針の再検討が必要となる。しかし、どちらでもないとの回答の多さの判断が問われる。教員の努力が前期よりも低下したのか、それともこの調査の意味を学生にしっかりと伝えていなかったための安易な回答となったのか。いずれにしても、学科として今一度確認を必要とする。

表 15 幼児教育学科 1 年（前期）



幼児教育学科1年 (前期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	51%	26%	13%	7%	3%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	53%	26%	14%	5%	1%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	51%	26%	17%	5%	1%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	57%	24%	11%	6%	1%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	69%	22%	6%	2%	1%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	64%	20%	10%	4%	1%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	48%	29%	13%	5%	1%	2%
Q8 私語をつつしんだ	55%	25%	12%	4%	1%	2%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	74%	17%	4%	2%	1%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	62%	23%	10%	4%	0%	1%

表 15 幼児教育学科 1年 (後期)

幼児教育学科1年 (後期)

	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	59%	14%	20%	4%	3%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	59%	16%	18%	3%	2%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	55%	16%	22%	3%	2%	2%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	61%	14%	19%	3%	1%	2%
Q5 教員は熱心に教えていた	69%	14%	15%	1%	1%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	65%	14%	16%	2%	1%	2%
Q7 いつも集中して聴けた	57%	17%	18%	4%	1%	1%
Q8 私語をつつしんだ	60%	19%	16%	3%	1%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	69%	9%	17%	2%	3%	0%
Q10 意欲的に取り組んだ	60%	17%	18%	2%	1%	1%

図 11 幼児教育学科 1年 (前期満足度)

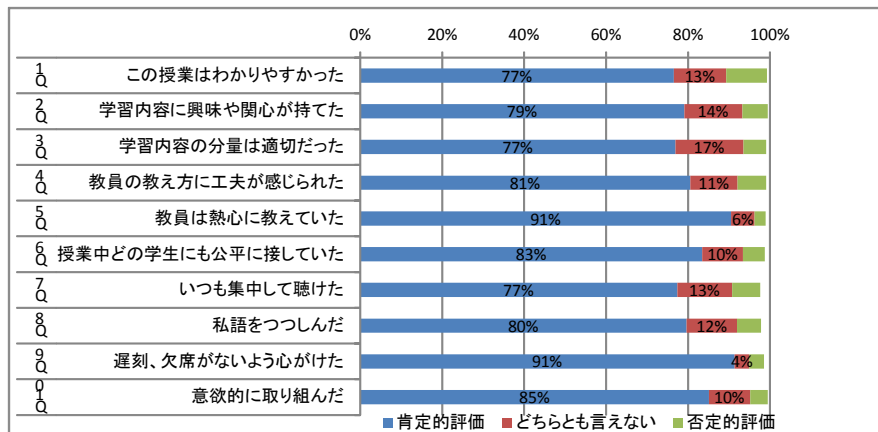
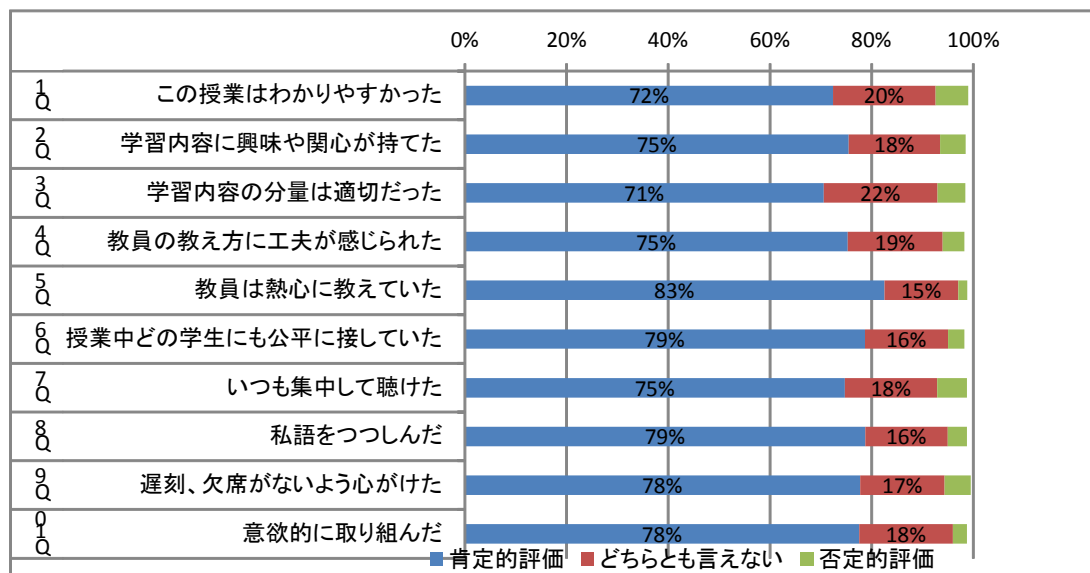


図 12 幼児教育学科 1 年（後期満足度）



## 6. 幼児教育学科 2 年

前期（表 17、図 13）、後期（表 18、図 14）に示しているとおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は概ね高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目で否定的評価は数%であり、学生の満足度は高い。

後期は全ての項目で前期の評価に比べ 10%を超える肯定的評価（とてもそう思う）の増加が認められる。後期には幼児教育学科のミュージックカーニバルが行われ、かつ、2 年次生の就職も内定（決定）が出され、学生自身の就職先と現在の学習内容が一致していることも、満足度の高い結果となっている。

表 17 幼児教育学科 2年 (前期)

幼児教育学科2年 (前期)

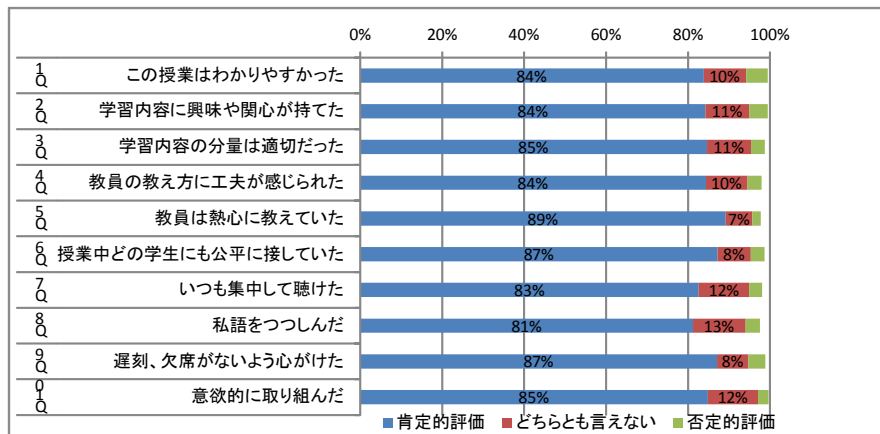
	とても そう 思う	だ いた い そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	65%	19%	10%	3%	3%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	66%	18%	11%	2%	2%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	64%	20%	11%	2%	1%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	65%	19%	10%	2%	2%	2%
Q5 教員は熱心に教えていた	72%	17%	7%	1%	1%	2%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	69%	18%	8%	2%	1%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	61%	21%	12%	2%	1%	2%
Q8 私語をつつしんだ	61%	20%	13%	3%	1%	2%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	72%	15%	8%	3%	1%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	67%	18%	12%	2%	1%	0%

表 18 幼児教育学科 2年 (後期)

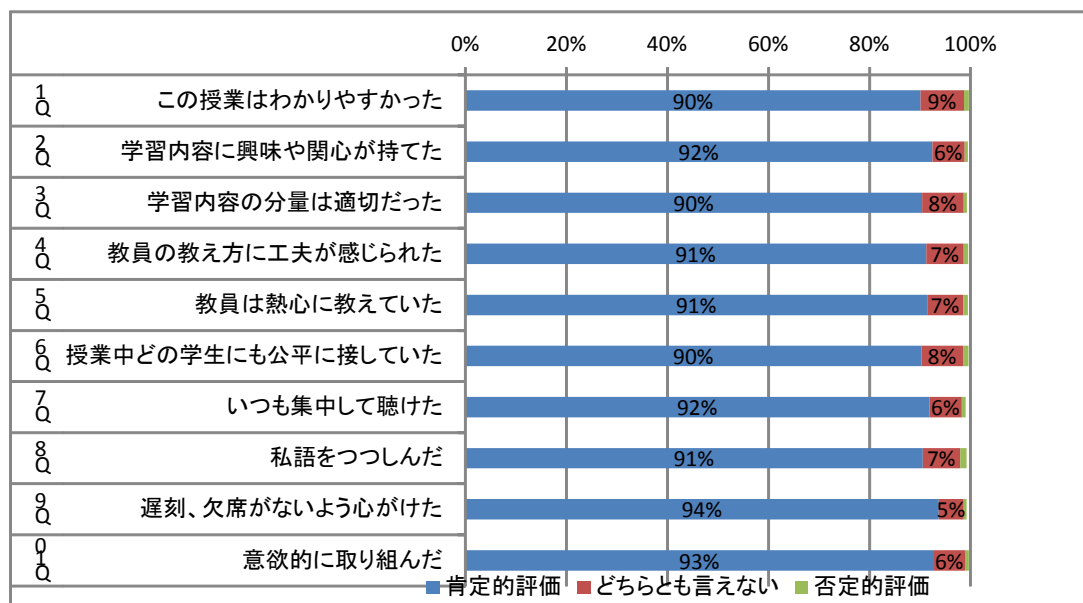
幼児教育学科2年 (後期)

	とても そう 思う	だ いた い そ う 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い	無 回 答
Q1 この授業はわかりやすかった	76%	14%	9%	0%	1%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	78%	14%	6%	0%	0%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	76%	14%	8%	0%	0%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	79%	13%	7%	0%	1%	0%
Q5 教員は熱心に教えていた	79%	12%	7%	0%	1%	1%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	77%	14%	8%	0%	1%	0%
Q7 いつも集中して聴けた	76%	16%	6%	0%	0%	1%
Q8 私語をつつしんだ	76%	15%	7%	1%	1%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	83%	11%	5%	0%	0%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	76%	17%	6%	0%	0%	0%

図 13 幼児教育学科 2年 (前期満足度)



#### 4 幼児教育学科 2 年（後期満足度）



#### 7. 介護福祉学科 1 年

前期（表 19、図 15）、後期（表 20、図 16）に示しているとおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は概ね高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目で否定的評価は数%であり、学生の満足度は高い。学生の入学の目的である介護福祉士資格の取得と授業内容が一致していることも原因の一つである。しかし、10%を超える学生は、理解度は低く、授業に臨む姿勢として集中できず。興味や関心が薄いという回答に注意を払う必要がある。

後期は、90%を超える学生の授業への満足を示している。大半の学生は意欲も旺盛で、

介護福祉学科の教員や授業に高い評価を与えている。しかし、少数ではあるが前期と同様について行けない、意欲が湧かない学生が存在している。教員はこれらの学生の個別指導等をとおして、本人の希望にあった進路指導をする必要がある。

表 19 介護福祉学科 1年 (前期)

介護福祉学科1年 (前期)		とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1	この授業はわかりやすかった	54%	31%	8%	4%	1%	1%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	56%	32%	7%	3%	2%	0%
Q3	学習内容の分量は適切だった	52%	31%	10%	3%	3%	0%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	53%	29%	12%	4%	2%	1%
Q5	教員は熱心に教えていた	70%	23%	4%	1%	1%	1%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	65%	23%	6%	3%	2%	1%
Q7	いつも集中して聴けた	52%	30%	9%	5%	2%	3%
Q8	私語をつつしんだ	69%	19%	5%	3%	1%	3%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	82%	13%	4%	0%	0%	1%
Q10	意欲的に取り組んだ	71%	20%	6%	2%	1%	0%

表 20 介護福祉学科 1年 (後期)

介護福祉学科1年 (後期)		とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1	この授業はわかりやすかった	74%	15%	7%	2%	1%	0%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	72%	19%	7%	1%	1%	0%
Q3	学習内容の分量は適切だった	73%	15%	7%	3%	1%	1%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	74%	15%	7%	2%	0%	0%
Q5	教員は熱心に教えていた	78%	15%	6%	1%	0%	0%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	73%	18%	6%	2%	1%	1%
Q7	いつも集中して聴けた	73%	15%	10%	2%	0%	0%
Q8	私語をつつしんだ	83%	11%	5%	0%	0%	0%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	88%	6%	5%	0%	0%	1%
Q10	意欲的に取り組んだ	78%	15%	7%	1%	0%	0%

図 15 介護福祉学科 1 年（前期満足度）

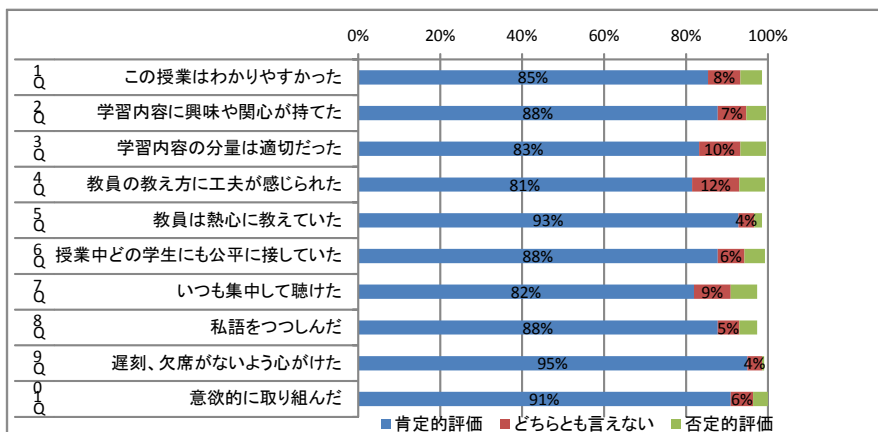
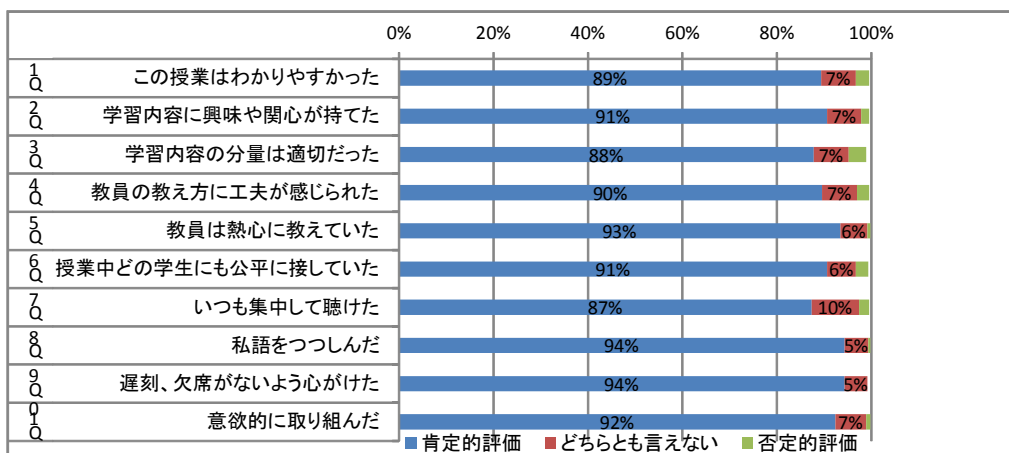


図 16 介護福祉学科 1 年（後期満足度）



## 8. 介護福祉学科 2 年

前期（表 21、図 17）、後期（表 22、図 18）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は概ね高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目で否定的評価は数%であり、学生の満足度は高い。介護福祉士養成の科目の多くは体験学習が多く、学生の能力に応じた個別の指導も教員の評価の増加に繋がっている。

後期は、介護福祉学科の行事として「ふくし・ふれ愛ひろば」という別府市内の老人会を招いての催しがある。この練習や就職先の内定（決定）もあり、日々充実した内容となっていることもあり、全ての項目において学生の肯定的評価は 95 %程度となっている。学生の目標としてきた希望の職種での就職決定は、教員及び学生のともに満足度を上げる。慢心せず一層の努力を期待したい。

表 21 介護福祉学科 2 年（前期）

介護福祉学科2年（前期）		とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1	この授業はわかりやすかった	76%	14%	5%	2%	2%	1%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	77%	15%	5%	2%	1%	0%
Q3	学習内容の分量は適切だった	77%	15%	5%	1%	0%	2%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	79%	13%	5%	0%	1%	2%
Q5	教員は熱心に教えていた	83%	10%	3%	0%	0%	4%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	84%	9%	3%	0%	1%	4%
Q7	いつも集中して聴けた	79%	11%	7%	1%	1%	2%
Q8	私語をつつしんだ	86%	6%	4%	0%	0%	4%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	86%	7%	3%	1%	0%	3%
Q10	意欲的に取り組んだ	83%	11%	5%	1%	1%	0%

表 22 介護福祉学科 2 年（後期）

介護福祉学科2年（後期）		とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1	この授業はわかりやすかった	83%	12%	4%	1%	0%	1%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	83%	12%	4%	1%	0%	1%
Q3	学習内容の分量は適切だった	82%	11%	5%	1%	0%	1%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	82%	12%	4%	1%	0%	1%
Q5	教員は熱心に教えていた	88%	9%	2%	0%	0%	1%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	86%	11%	1%	0%	1%	1%
Q7	いつも集中して聴けた	79%	14%	5%	1%	0%	1%
Q8	私語をつつしんだ	86%	9%	4%	1%	0%	0%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	90%	7%	1%	1%	0%	1%
Q10	意欲的に取り組んだ	85%	11%	2%	1%	0%	0%

図 17 介護福祉学科 2 年（前期満足度）

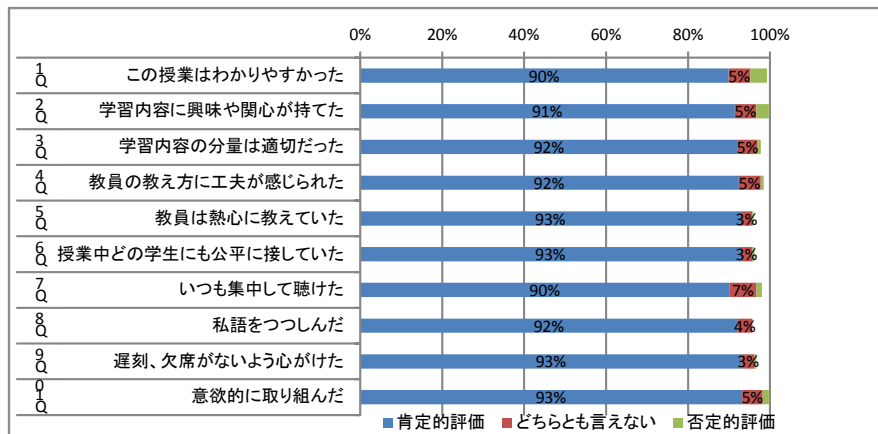
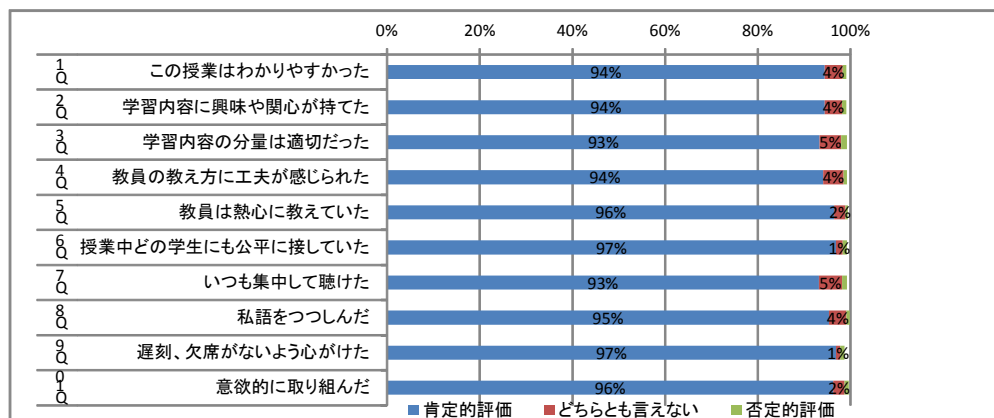


図 18 介護福祉学科 2 年（後期満足度）



## 9. 留学生 1 年

前期（表 23、図 19）、後期（表 24、図 20）に示しているとおおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目の肯定的評価は 95 % を超えている。学生の満足度は高い。ただし、1 名において授業について行けないものがある。教員として個別指導を含め、日本語教育課程全員で全学生の満足が得られるよう努力を期待したい。

後期は前期と同じ結果がでた。前期においてついて行けなかった学生は、後期においても不満を持っている。前期との大きな変化が 1 点ある。それは私語の多さである。前期は私語しないように努力している様子がうかがえたが、後期にはそれが薄れてきている。日本に慣れてきている面もあるが、学生の期待した授業に無いための私語とも受け取れる。教員の一層の努力を期待する。



表 23 留学生 1 年（前期）

留学生1年		(前期)				
	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	93%	3%	0%	0%	4%	0%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	90%	5%	0%	1%	3%	1%
Q3 学習内容の分量は適切だった	95%	5%	0%	0%	0%	1%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	90%	5%	1%	0%	3%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	93%	5%	0%	0%	1%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	96%	0%	1%	1%	1%	1%
Q7 いつも集中して聴けた	92%	4%	0%	0%	2%	1%
Q8 私語をつつしんだ	97%	2%	0%	0%	0%	1%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	99%	0%	0%	0%	0%	1%
Q10 意欲的に取り組んだ	95%	1%	1%	1%	1%	1%

表 24 留学生 1 年（後期）

留学生1年		(後期)				
	とてもそう思う	だいたいそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
Q1 この授業はわかりやすかった	94%	2%	2%	1%	1%	1%
Q2 学習内容に興味や関心が持てた	96%	2%	2%	0%	1%	0%
Q3 学習内容の分量は適切だった	94%	2%	1%	0%	4%	0%
Q4 教員の教え方に工夫が感じられた	96%	0%	1%	0%	1%	1%
Q5 教員は熱心に教えていた	96%	1%	2%	0%	1%	0%
Q6 授業中どの学生にも公平に接していた	96%	1%	1%	0%	1%	0%
Q7 いつも集中して聴けた	95%	2%	1%	0%	0%	1%
Q8 私語をつつしんだ	81%	0%	0%	2%	17%	0%
Q9 遅刻、欠席がないよう心がけた	97%	0%	0%	0%	2%	0%
Q10 意欲的に取り組んだ	96%	1%	1%	1%	0%	1%

図 19 留学生 1 年（前期満足度）

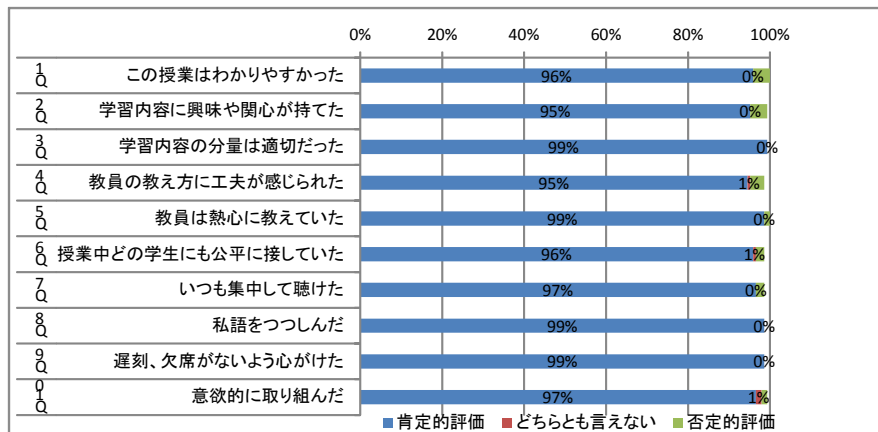
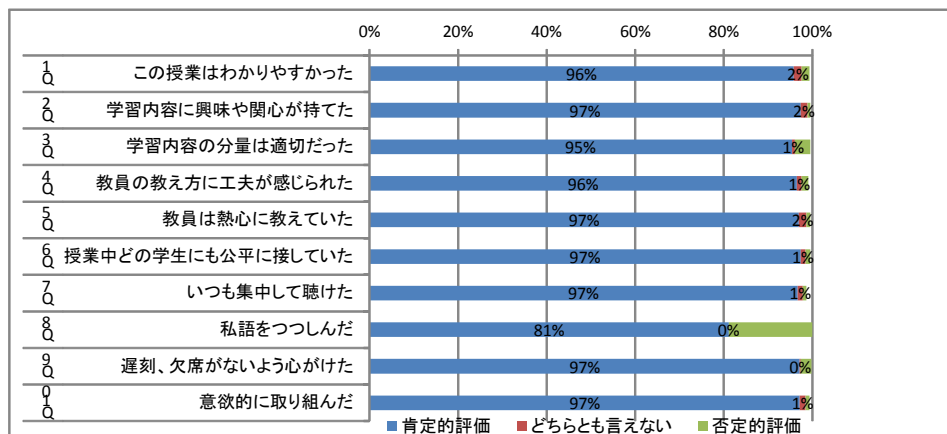


図 20 留学生 1 年（後期満足度）



## 10. 留学生 2 年

前期（表 25、図 21）、後期（表 26、図 22）に示しているとおり、前期の満足度（肯定的評価）において、教員の授業に対する評価は高い。学生の受講意欲は旺盛である。全ての項目の肯定的評価は 95 % を超えている。学生の満足度は高い。ただし、1～2 名において授業について行けないものがある。教員として個別指導を含め、日本語教育課程全員で全学生の満足が得られるよう努力を期待したい。

後期は前期から 10% 以上の評価の減少が出ている。進路の問題で学生が授業に集中力を失ってきていることも原因であるが、教員の個々に対する指導がミスマッチを起こしていることも考えられる。否定的評価はほとんど無いが、肯定的評価が減少していることを

教員は厳粛に受け止め、その理由、対策を検討していただきたい。

表 25 留学生 2 年（前期）

留学生2年 (前期)		とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそう 思わ ない	ま った くそ う思 わな い	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	93%	1%	2%	1%	3%	1%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	95%	1%	1%	0%	3%	0%
Q3	学習内容の分量は適切だった	95%	1%	1%	0%	3%	0%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	96%	1%	1%	0%	2%	0%
Q5	教員は熱心に教えていた	95%	2%	0%	1%	2%	0%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	94%	1%	2%	0%	2%	2%
Q7	いつも集中して聴けた	95%	2%	1%	0%	2%	0%
Q8	私語をつつんだ	93%	2%	2%	0%	2%	0%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	96%	1%	0%	0%	2%	1%
Q10	意欲的に取り組んだ	92%	2%	1%	1%	5%	0%

表 26 留学生 2 年（後期）

留学生2年 (後期)		とても 思う	だいた いそう 思う	どち らとも 言え ない	あま りそう 思わ ない	ま った くそ う思 わな い	無 回 答
Q1	この授業はわかりやすかった	73%	9%	9%	5%	5%	0%
Q2	学習内容に興味や関心が持てた	82%	5%	14%	0%	0%	0%
Q3	学習内容の分量は適切だった	82%	9%	5%	5%	0%	0%
Q4	教員の教え方に工夫が感じられた	77%	9%	9%	0%	5%	0%
Q5	教員は熱心に教えていた	77%	9%	14%	0%	0%	0%
Q6	授業中どの学生にも公平に接していた	82%	9%	9%	0%	0%	0%
Q7	いつも集中して聴けた	77%	0%	18%	0%	0%	5%
Q8	私語をつつんだ	82%	0%	18%	0%	0%	0%
Q9	遅刻、欠席がないよう心がけた	82%	0%	18%	0%	0%	0%
Q10	意欲的に取り組んだ	82%	0%	18%	0%	0%	0%

図 21 留学生 2 年（前期満足度）

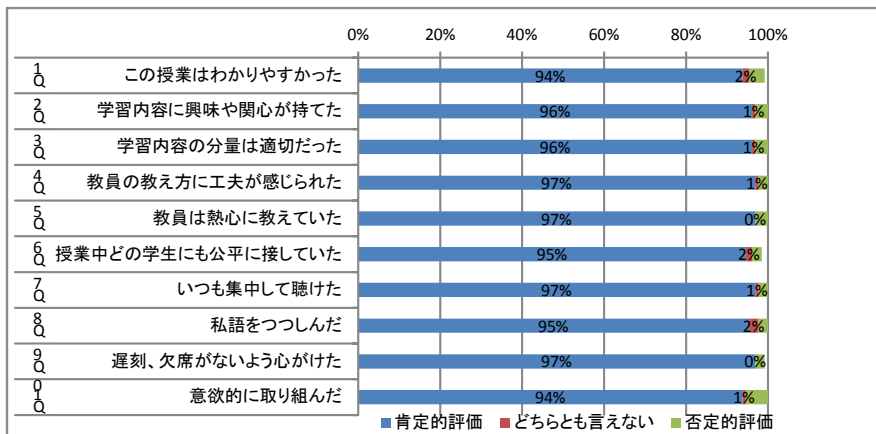
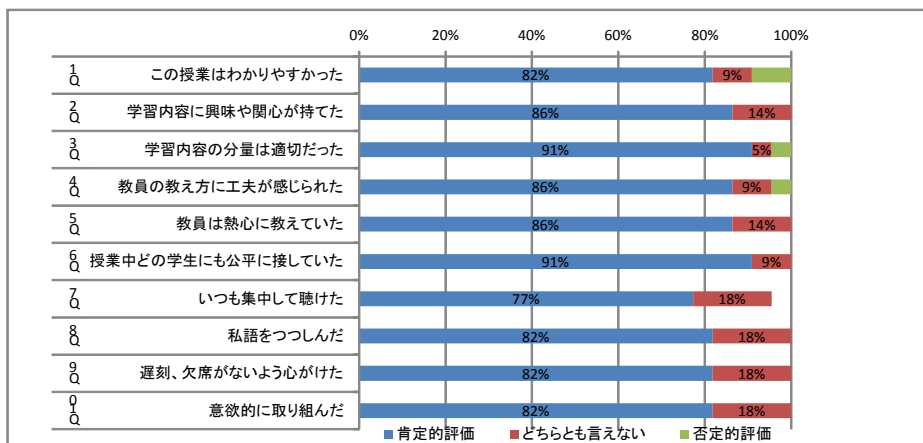


図 22 留学生 2 年（後期満足度）



おわりに

平成 24 年度の学生による授業評価を集計し、分析を試みた。学科の目指す免許・資格等により教育内容は異なる。それを目指し入学してきた学生の個別の学力・能力も異なる。この状況の中、同じ基準で比較はできない。しかし、学生の満足度を高めることは、学科による差は関係ない。全学科に共通した傾向としては、前期の肯定的評価に比べ、後期の肯定的評価は高いことである。このことは教員の努力の賜と言える。

本学の建学の精神である「自立・自活できる人材の育成」を達成するためには、入学してきた学生の将来の夢（職業）をより具体的に明確に示していく中で、就業に必要な知識・スキルの修得が、日々の授業に直結していることを、学生に理解させていく中から生ま

れる。近年、学生の学力低下については全国的な問題となっている。本学の学生においてもこの状況は否定できない。しかし、2年後にはこの学生1人1人が「自立・自活」する人材となってくれなければ、本学の目標が達成されないだけでなく、地域の高等教育機関としての役割を果たしたことになる。そのため、入学前や入学後の補習授業を行う必要も検討しなければならない。教員が授業内容・方法の改善に叡智を絞り、指導力を向上させる組織的な取り組み（FD）も積極的に行う必要がある。個人の努力を求めつつ、組織的、継続的な努力が期待されている。

本学で、学生による授業評価を導入して12年が経過した。教員は授業に関するPDCAを理解し、真摯な態度で反省、分析、対策を立て、実践し、着実にその成果を挙げてきている。特に、Q5（教員は熱心に教えていた）の項目については、毎年、前・後期とも最上位の肯定的評価となっており、その他の教員側に関係する項目もほとんどが高い評価を得ている。使命感に溢れ、強い教育的愛情をもったきめ細かい指導は殆どの学生に好意的に受け止められている証である。

しかし、授業について行けない学生が少数ではあるが存在している事実も受け止めるべきである。冷静に自己評価して改善の途を模索し、学生の期待に応え得る資質能力を身に付けなければならないことはいうまでもない。授業公開等FD研修の積極的な活動を推進することも、問題点の解決の一方策である。今回のアンケート結果が、明日の明るい途となることを期待する。